

平成22年度 中央病院臨床研究課題

番号	新規 継続	研究責任者	研究課題
1	新規	放射線診断部長 佐藤 始広	Dual energy CT を用いた a low tube voltage,high tube current computed tomographic(CT)technique と material density image による腫瘍診断の試み
2	新規	放射線診断部長 佐藤 始広	Dual energy CT を用いた lung perfusion image と Tc-99m MAA SPECT/CT による肺血流シンチグラムの比較検討
3	継続	臨床検査科 技師 阿部 香織	乳腺発癌におけるメチル化機構の解析
4	新規	腫瘍内科 医長 太田 昌一郎	血管新生に関連したバイオマーカーを用いた抗がん剤効果判定へのアプローチ
5	継続	化学療法センター長 小島 寛	血中プロテアソーム活性を指標にした多発性骨髄腫に対する化学療法の最適化
6	新規	呼吸器内科 医長 内海 啓子	肺炎球菌尿中抗原キッドを用いた感染性胸膜炎での起炎菌の同定(Binax NOW)
7	新規	臨床研究局長 高山 豊	血管疾患症例に関するカンファランス Vascular Board の現況と問題点に関する研究
8	継続	臨床検査科 専門員 内田 好明	胆道系悪性腫瘍の細胞・病理診断における均霑化に向けての検討
9	新規	放射線技術科 専門員 山田 公治	Dual Energy CT を用いた Decomposition image (物質分別画像)の有用性
10	継続	臨床検査科 技師 新発田 雅晴	尿路系悪性腫瘍に対する尿細胞診の補助手段を目的としたバイオマーカーの検討
11	新規	放射線診断科 医員 阿部 考志	3D-VIBE シーケンスの頭部撮像への応用と、各種パラメーターの最適化
12	新規	看護教育支援室長 黒木 淳子	サージレーププログラム運用による手術室マネジメントに関する研究
13	新規	第二診療部長 大塚 稔	漢方製剤とりわけ補剤は感染性椎間板炎の治療に有効か？

臨床研究課題報告書

課題名 (演題名)	Dual energy CTを用いたa low tube voltage, high tube current computed tomographic (CT) techniqueとmaterial density imageによる腫瘍診断の試み			
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	放射線診断科	氏名	佐藤 始広
共同研究(発表)者	阿部 考志、伊藤 裕太、山田 公治 小泉 正美 谷田部 克彦			
研究成果概要 (進捗状況)	<p>a low tube voltage dual energy computed tomographic (CT) techniqueの膵癌における検討を行った。膵癌5例において通常の撮像法(high voltage: 120 KeV)(high voltage method)とdual energy CTの仮想monochromatic imageによるlow voltage mage : 70 KeV (low voltage method)における膵実質相での膵実質の濃染の程度、膵・腫瘍 contrast-to-noise ratio(CNR ratio)、読影者3名による腫瘍検出の差異について検討を行った。膵実質の膵実質相でのCT値は high voltage method : low voltage method = 67.3 : 138.4 と low voltage method で有意に高かった。膵・腫瘍 contrast-to-noise ratio(CNR ratio)も high voltage method : low voltage method = 5.1:7.9 (p<0.05) と low voltage mageでコントラストが有意に良好であった。しかし、読影者3名による腫瘍検出の差異は認められなかった。dual energy CTの仮想monochromatic imageによるlow voltage mage は膵癌の診断において、良好な膵実質・腫瘍コントラストが得られるが、実際の読影者による検出能の差異は認められなかった。本法は被ばく線量を減らす方法と併用することでより現実的な有用性を見いだせるかと考える。</p>			
有害事象・不具合等の発生状況				
論文	(著者、共著者:表題、雑誌名、年、巻(号):ページ)			
学会・研究会	(演者、共同演者:演題名、学会名、年月日、開催地)			
その他特記事項等				

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

臨床研究課題報告書

課題名 (演題名)	Dual energy CTを用いたlung perfusion imageとTc-99m MAA SPECT/CTによる肺血流シンチグラムの比較検討			
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	放射線診断科	氏名	佐藤 始広
共同研究(発表)者	阿部 考志、伊藤 裕太、山田 公治、鈴木 あゆみ			
研究成果概要 (進捗状況)	<p>研究期間内にdual energy CTによるperfusion scanとTc-99m MAAによる肺血流SPECTが施行されたのは5例であった。いずれも、下肢静脈血栓症からの急性肺塞栓症であった。両者の画像から、区域毎の血流状態を、正常、patty pattern, segmental defect の3段階で評価し、その一致率を評価した。今回はpatty pattern, segmental defectは血流低下・欠損として評価した。その結果、両検査法とも血流低下が33区域、正常血流域が52区域、両検査での不一致区域は5区域で、SPECTでの血流低下領域がdual energy CTで正常と判定された区域が4区域で、dual energy CTで血流低下領域がSPECTで正常と判定された区域が1区域であった。Tc-99m SPECTをgolden standardした際のdual energy CTによるperfusion scan感度:89.2% 特異度:98.1% 正診率:94.4%であった。従って、dual energy CTによるperfusion scanは肺還流状態を良好に反映していると考えられるが、施行症例が5例と少なく目標の20例まで検討を行い、学会誌に投稿する予定である。また、GE社のdual energy CTによるperfusion scanは正常血流域と血流低下・欠損域のコントラストが不良で表示法の再検討が必要であり、GE社との検討中である。</p>			
有害事象・不具合等の発生状況	特になし			
論文				
学会・研究会	(演者、共同演者:演題名、学会名、年月日、開催地)			
その他特記事項等				

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

臨床研究報告書

(年次報告)・終了報告)

課 題 名 (演 題 名)	乳腺腫瘍におけるメチル化機構と転写因子CTCFの解析			
主任研究(発表)者	所 属 (診療科等)	臨床検査科	氏 名	阿部 香織
共同研究(発表)者	内田好明、新発田雅晴、常松一恵、野上達也、斉藤仁昭、飯島達生、土井幹雄、井村 稔二			
研究成果概要 (進捗状況)	<p>これまでの研究で、乳癌組織における各種遺伝子のMethyl化状態をmethylation-specificPCR (MSP)法で捕捉し、その発現の消失を蛋白レベルで免疫組織学的に検討してきた(学会発表1)。またDnmt-1、3bの発現は、蛋白レベルのみならず、定量化に向けてmRNAの発現量をReal-time PCRを用いて検討してきた。その結果、乳癌では各種関連遺伝子が高メチル化状態にあり、それらではDnmt-1、3bも高発現していることを明らかにした(学会発表2)。</p> <p>今回、検討する蛋白にCTCFを加え、メチル化異常と共に、インスレーター機構がどの程度までに乳腺疾患において相互に関与しているかを検討するとともに、臨床病理学的諸因子と共に患者層別化に用いることが可能か否かを検討した。また、術前検査として簡便かつ侵襲性の低い細胞診検査に应用可能かどうか、蛋白レベルでの免疫細胞学的検討を行った。</p> <p>良悪腫瘍においてCTCFの発現の有無を調べると、良悪性腫瘍で発現部位が異なるという結果を得た(学会発表4,5)。また、他臓器においても同様の結果が得られるか検討を加えた(学会発表5)。細胞診検体においても同様の傾向が伺われ、より侵襲性の低い細胞診検査に対しても応用が可能であることが示唆された(学会発表3,5)。</p> <p>今後、乳癌以外の臓器への応用も可能か否かの検討も加えていきたい。</p>			
有害事象・不具合等の発生状況	特になし			
論文				
学会・研究会	<p>1.阿部香織、井村稔二、内田好明、野上達也、矢萩かをる、常松一恵、新発田雅晴、平野稔、三橋彰一、斉藤仁昭、飯島達生: DNA methyltransferaseが乳癌組織内で種々の遺伝子発現におよぼす影響に関する検討、第97回病理学会総会(2008/5/16、金沢市)</p> <p>2.阿部香織、井村稔二、内田好明、新発田雅晴、常松一恵、野上達也、斉藤仁昭、飯島達生、土井幹雄: 乳癌組織における腫瘍細胞のMethylation状態とDNAMethyltransferase活性の相互比較、第98回病理学会総会、(2009/5/1、京都市)</p> <p>3.阿部香織、井村稔二、内田好明、新発田雅晴、常松一恵、野上達也、斉藤仁昭、飯島達生、土井幹雄: 乳癌細胞におけるメチル化関連酵素発現に関する検討、第48回日本臨床細胞学会秋期大会(2009/10/31、福岡市)</p> <p>4.:阿部香織、井村稔二、内田好明、新発田雅晴、常松一恵、野上達也、斉藤仁昭、飯島達生、土井幹雄: 乳癌組織におけるメチル化関連酵素とCTCF発現に関する検討、第99回病理学会総会(2010/4/28、新宿区)</p> <p>5.:阿部香織、井村稔二、内田好明、新発田雅晴、常松一恵、石井愛美、野上達也、斉藤仁昭、飯島達生、土井幹雄: 子宮内臓組織におけるメチル化関連酵素と転写因子CTCF発現に関する検討、第100回病理学会総会(2011/4/29、横浜市)</p>			
その他特記事項等				

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

根拠:

(9)研究責任者は、毎年一回、臨床研究の進捗状況並びに有害事象及び不具合等の発生状況を臨床研究機関の長に報告しなければならない。また、臨床研究を終了したときは、臨床研究機関の長にその旨及び結果の概要を文書により報告しなければならない。

臨床研究課題報告書

課題名 (演題名)	血管新生に関連してバイオマーカーを用いた抗がん剤効果判定へのアプローチ		
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	腫瘍内科	氏名 太田 昌一郎
共同研究(発表)者	小島 寛		
研究成果概要 (進捗状況)	血管新生に関連すると考えられている遺伝子群。KRAS(exon12.13)BRAF(exon15)PIK3CA(exon9.20)の遺伝子解析を施行した。今回の対象は原発不明癌11例であった。1例でKRAS、他の1例でBRAF遺伝子にそれぞれ変異をみとめた。原発不明癌に対する分子標的薬使用の可能性が示唆された。		
有害事象・不具合等の発生状況	なし		
論文	投稿準備中(著者、共著者:表題、雑誌名、年、巻(号):ページ)		
学会・研究会	ASCO(American Society of Clinical Oncology)Submit 日本臨床腫瘍学会 発表予定(演者、共同演者:演題名、学会名、年月日、開催地)		
その他特記事項等			

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

臨床研究課題報告書

課題名 (演題名)	血中プロテアソーム活性を指標にした多発性骨髄腫に対する化学療法最適化			
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	腫瘍内科	氏名	小島 寛
共同研究(発表)者	張 愉紀子、太田 昌一郎、堀 光雄			
研究成果概要 (進捗状況)	<p>①健常人30例、患者10例の解析を終了した。今後は患者N数を増やす必要があり、研究を継続する予定である。</p> <p>②ボルテゾミブ投与法を最適化するための用量設定試験(Phase I study)が進行中である。ボルテゾミブ、dose level 2(1.6mg/m²)の患者リクルートが開始された。</p>			
有害事象・不具合等の発生状況	なし。(②の(Phase I study)については、効果安全委員会で、dose level 1のstudyが問題なく終了したことが確認された。)			
論文	なし(著者、共著者:表題、雑誌名、年、巻(号):ページ)			
学会・研究会	第73回 日本血液学会で発表予定(2011年10月)(演者、共同演者:演題名、学会名、年月日、開催地)			
その他特記事項等	上記、学会抄録を添付します。			

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

臨床研究課題報告書

課題名 (演題名)	肺炎球菌尿中抗原キットを用いた感染性胸膜炎での起炎菌の同定			
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	呼吸器内科	氏名	内海 啓子
共同研究(発表)者	楠木 孝之、外			
研究成果概要 (進捗状況)	新しい体腔液用キットが市販されたため、今回の尿中抗原キットの試験は中止とします。			
有害事象・不具合 等の発生状況				
論文	(著者、共著者:表題、雑誌名、年、巻(号):ページ)			
学会・研究会	(演者、共同演者:演題名、学会名、年月日、開催地)			
その他特記事項等				

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

臨床研究報告書

(年次報告・終了報告)

課題名 (演題名)	血管膝窩症例に関するカンファレンスVascular Boardの現況と問題点に関する研究		
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	外科	氏名 高山 豊
共同研究(発表)者	馬場雅子、安倍大輔、鈴木祥司、武安法之、有阪弘明、鈴木洋志		
研究成果概要 (進捗状況)	研究の成果を下記の学会にて発表し、論文を下記の雑誌に投稿中である。		
有害事象・不具合等の発生状況	なし		
論文	高山 豊、馬場雅子、吉田健太郎、安倍大輔、鈴木祥司、武安法之、有阪弘明、鈴木洋志、吉見富洋、永井秀雄:血管疾患症例に関するカンファレンスVascular Boardの試み～多診療科、多職種のコラボレーション～、日本血管外科学会雑誌(投稿中)		
学会・研究会	高山 豊、馬場雅子、吉田健太郎、安倍大輔、鈴木祥司、武安法之、有阪弘明、鈴木洋志、吉見富洋、永井秀雄:血管疾患症例に関するカンファレンスVascular Boardの試み～多診療科、多職種のコラボレーション～、第38回日本血管外科学会学術総会、2010.5.21,大宮		
その他特記事項等	なし		

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

臨床研究報告書

(年次報告) 終了報告

<p>課題名 (演題名)</p>	<p>胆道系悪性腫瘍の細胞・病理診断における均霑化に向けての検討</p>			
<p>主任研究(発表)者</p>	<p>所属 (診療科等)</p>	<p>臨床検査科</p>	<p>氏名</p>	<p>内田 好明</p>
<p>共同研究(発表)者</p>	<p>井村 穰二、常松 一恵、新発田 雅晴、阿部 香織、野上 達也、 荒木 眞裕、斉藤 仁昭、飯嶋 達生、土井 幹雄、</p>			
<p>研究成果概要 (進捗状況)</p>	<p>研究内容 1 【目的】「胆汁細胞診判定 スコア リングシステム」を日常の細胞判定に用いた検証を行い、さらに診断精度を向上させるための改善点を探ること。 【材料と方法】平成 22 年 8 月 1 日から平成 23 年 2 月 28 日までの間に当院において細胞診断を目的に提出された胆汁細胞診材料 40 例に対して、従来の施設基準にて細胞判定を行った後に、日本臨床細胞学会研究班基準(以下、研究班基準)に従い各所見を評価して、研究班機基準ならびに我々が提唱しているスコアリングシステムにおいて細胞判定を行った。各基準の診断精度の評価は感度、特異度、正診率にて行った。 【結果】各施設基準における診断精度は、施設基準では感度、特異度、正診率。研究班基準では感度、特異度、正診率。スコアリングシステムでは感度、特異度、正診率であった。 【考察】スコアリングシステムの問題点としては、現状では疑陽性の基準がないため誤陰性や誤陽性の判定が発生しやすい。今後この問題点を改善するためにさらに症例数を増やし検討を行う必要がある。</p> <p>研究内容 2. 【目的】免疫化学や分子生物学的手法を用いて、担癌状態あるいは非担癌状態を判断する指標を確立すること。 【材料と方法】材料は、当院において、手術にて得られた胆管癌 28 症例の腫瘍部ならびに非腫瘍部のホルマリン固定・パラフィン包埋組織を用いた。免疫組織化は、Ventana iVEW universal kit (Roche Diagnostics) を用いて、抗 S-100P(clone:16/S100P B.D.)、抗 P53 (clone: D0-7</p>			

臨床研究課題報告書

演題名	Dual Energy CT を用いたDecomposition image(物質分別画像)の有用性			
主任研究(発表)者	所 属 (診療科等)	放射線技術科	氏 名	山 田 公 治
共同研究(発表)者	佐藤始広 阿部考志 谷田部克彦 小泉正美 高坂倫江 鈴木あゆみ			
研究成果概要 (進捗状況)	<p>1) Dual Energy CTで可能となるモノクロマチックImage(仮想単色X線画像)、Decomposition image(物質分別画像)の特性を理解するため、それぞれのファントムを試作した。モノクロマチック用のファントムは通常造影検査時のCT値を基本に2倍、3倍、5倍、10倍、と水を用意し、造影剤の低減が可能か検討した結果、keVの値とCT値に相関性が確認できた。臨床的には、半分の造影剤量で従来のCT画像を得ることが可能となるテクニックの構築が可能であることが示された。</p> <p>2) Decomposition image(物質分別画像)では、造影剤の分布を描出することにより、血流分布と量を知るためのファントムを、水とヨード造影剤1mgから10mgまで1mg間隔で計11パターン作製した。Workstation(WS)で解析した結果、WS上で指定したWWを1にし、WLを調整した値と対比し各ヨード量のみが強調されることが確認できた。CT装置にて体内のヨード分布とヨード量が把握できる可能性を示した。問題点としては画像ノイズ、画像フィルターの選択が限られるために、精度よく分別されるも視覚的に把握しにくい点があり、ソフトの改善が求められる。</p> <p>3) 肺塞栓の症例10症例中、血栓を認めた5症例に対し区域毎に比較した結果、感度89.2、特異度98.1、正診率94.4の高い相関性を示した。しかし、GSIVViewerで確認する血流分布には原理を理解した者でないと評価が難しい事が判明している。今後の課題としては、臨床医が視覚的に安易に評価できるViewerの開発が望まれる。メーカーに対しては今実験のデータをもとに原理方法の提案をしていきたい。</p>			
有害事象・不具合等の発生状況				
論文	<p>1)K Yamada,M Satou: GSI(Gemstone Spectral Imaging) Stady.GE Today Vol34:3-4,2010</p> <p>2)K Yamada,M Satou: Dual Energy CTを使用しうかがえる、CT装置開発の方向性と展望.Rad Fan Vol8 No.4:27-29,2010</p>			
学会・研究会	常陸水戸画像研究会 放射線技術学会(震災により中止、Cyposのみでの発表)			
その他特記事項				

臨床研究報告書

(年次報告・終了報告)

課題名 (演題名)	尿路系悪性腫瘍に対する尿細胞診の補助手段を目的とした バイオマーカーの検討			
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	臨床検査科	氏名	新発田 雅晴
共同研究(発表)者	内田好明、阿部 香織、常松 一恵、野上 達也、井村 穰二、山内 敦、 海老沢 三枝子、長須 健悟、斉藤仁昭、飯島達生、土井幹雄			
研究成果概要 (進捗状況)	Cathepsin E、CyclinA2およびGRO α の抗体を免疫組織化学的に検討を行った。免疫組織化学的な検討の結果としては、Cathepsin E、およびGRO α は、陰性となった。唯一、CyclinA2のみが良好な染色結果が得られた。CyclinA2は細胞周期(S期、G1期を)を制御するマーカーで細胞増殖能と関連している因子であることがわかった。CyclinA2の有用性の検討を、ki-67などの抗体と比較検討をし、平成22年11月21日の第49回日本臨床細胞学会秋季大会にて発表した。また、さらなる追加を加えて平成23年5月22日の臨床細胞学会にて発表の予定です。			
有害事象・不具合等の発生状況	特になし			
論文	(著者、共著者:表題、雑誌名、年、巻(号):ページ)			
学会・研究会	新発田 雅晴 井村 穰二、内田 好明、阿部 香織、常松 一恵、野上 達也、斉藤仁昭、飯島達生、土井幹雄 演題名:尿路系悪性腫瘍に対するを目的としたバイオマーカーの検討 平成22年11月20日~22日 第49回日本臨床細胞学会秋季大会 (演者、共同演者:演題名、学会名、年月日、開催地)			
その他特記事項等				

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

根拠:

(9)研究責任者は、毎年一回、臨床研究の進捗状況並びに有害事象及び不具合等の発生状況を臨床研究機関の長に報告しなければならない。また、臨床研究を終了したときは、臨床研究機関の長にその旨及び結果の概要を文書により報告しなければならない。

臨床研究報告書

(年次報告・終了報告)

課題名 (演題名)	D-VIBEシーケンスの頭部撮像への応用と、各種パラメーターの最適化			
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	放射線診断科	氏名	阿部 考志
共同研究(発表)者	佐藤 始広, 児山 健, 伊藤 裕太 木島 学, 松本 浩幸, 勝山 裕之			
研究成果概要 (進捗状況)	<p>【目的】3T MRIで3D gradient echo法を用いて頭部撮像を行う場合の、最適なrepetition time, flip angleを検討する。</p> <p>【対象と方法】対象はnormal volunteer6例。TR、FAを変更しながら頭部の撮像を行う。白質、灰白質のSNRとCNRを計測し、SNR、CNRが最も優れている条件を検討する。</p> <p>【結果】TR=5ms、FA=9度でもっともCNRが優れていた。SNRが優れていたのはTR=5ms、FA=6度だが、コントラストが悪く、臨床的有用性は低いと思われた。</p> <p>【考察】結果は半ば予想通りで、TRを固定、FAを変化させた場合に予想通り信号強度が変化した。造影剤を用いて造影増強効果を観察する場合、造影剤で組織のT1値が短縮することを考えると、FAは9度よりも大きい方が有利である。このとき、CNR(白質と灰白質の信号強度差)は低下するが、白質と灰白質の信号強度比はむしろ増大し、読影の困難とはならない。TR=5msであればFAは9度以上が適切と思われる。</p> <p>一方、TR=10msやTR=20msに変更した場合、TR=5msよりもコントラストは不良となった。理論的には、FAを最適化すればTR=5msの場合と同等のSNR、CNRが得られるはずであり、理論的な予想とは異なった結果である。この原因として、B1やRFの不均一性や撮像プロトコルの影響が考えられる。</p> <p>【結語】3D gradient echo法の撮像では、TRとFAの設定を適切に行う必要があることが確認された。臨床的には、TR=5ms、FA=9度前後での撮像を考えている。</p>			
有害事象・不具合等の発生状況	なし。			
論文	(著者、共著者:表題、雑誌名、年、巻(号):ページ)			
学会・研究会	日本医学放射線学会2012秋期臨床大会に報告予定で準備中。			
その他特記事項等				

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

根拠:

(9)研究責任者は、毎年一回、臨床研究の進捗状況並びに有害事象及び不具合等の発生状況を臨床研究機関の長に報告しなければならない。また、臨床研究を終了したときは、臨床研究機関の長にその旨及び結果の概要を文書により報告しなければならない。

臨床研究課題報告書

課題名 (演題名)	サージレールプログラム運用による手術室マネジメントに関する研究			
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	看護局	氏名	黒木 淳子
共同研究(発表)者	吉田千賀子、沼尻信子、紺野喜代子、橋本泉、角田直枝			
研究成果概要 (進捗状況)	<p>1)平成22年10月から手術室業務支援ソフトウェア「サージレール」(村中医療機器)の試験的に導入した。</p> <p>2)看護業務との関連でプログラム導入の効果を評価するため、(1)～(3)についてシステム導入前調査を行った。</p> <p>(1)手術室稼働率</p> <p>(2)手術室看護師の業務内容と各業務にかかる時間(タイムスタディ)</p> <p>(3)手術室看護師の時間外勤務時間数</p> <p>その結果、1日の総手術時間は平均32時間55分、8時から18時までの手術室最大稼働率79%、平均稼働率45.5%であった。日勤時間帯の看護業務のうち間接業務(準備、片付け、物品管理など手術看護以外)が約30%を占めており、間接業務の内訳を分析した結果、システムを導入し間接業務を委託した場合に約20%の手術看護業務のキャパシティーアップが見込まれた。</p> <p>3)現在、6カ月間運用後の調査準備中である。調査結果は導入前と比較し、試験的導入の評価を行う。またその結果を受けて、以下に関する業務改善案の検討を予定している。</p> <p>(1)手術室運用枠の見直し</p> <p>(2)看護師の配置人員と勤務シフトの最適化</p> <p>(3)周手術期に必要な看護業務の見直し</p>			
有害事象・不具合等の発生状況				
論文	(著者、共著者:表題、雑誌名、年、巻(号):ページ)			
学会・研究会	平成23年度茨城県医療マネジメント学会での発表を計画中。			
その他特記事項等	(演者、共同演者:演題名、学会名、年月日、開催地)			

※ 論文を発表した時は別刷りまたはコピーを、学会・研究会で発表した時は抄録あるいはプログラムのコピーを添付すること。

臨床研究報告書

(年次報告・終了報告)

課題名 (演題名)	漢方製剤とりわけ補剤は感染性椎間板炎の治療に有効か？			
主任研究(発表)者	所属 (診療科等)	整形外科	氏名	大塚稔
共同研究(発表)者	吉本憲治			
研究目的	<p>化膿性椎間板炎で治療に難渋する症例を最近とみに多く見受けける。治療法としては起因菌を速やかに同定し、感受性のある抗生物質と安静がその治療の基本である。</p> <p>しかし上記した治療にも関わらず、治療に抵抗して炎症徴候が落ち着かが長期臥床を余儀なくさせられる症例が多いのも事実である。治療に難渋する患者に糖尿病を合併する症例が多いことは以前より報告されていることは事実であるが何の合併症もないのに抗生剤がその効果を示さない症例も見かける。</p> <p>ところで漢方製剤補中益気湯は補剤として用いられ、江戸時代においては肺結核の治療薬として用いられてきた経緯をもつ薬剤である。すなわち過去においては免疫機能を調整する働きをもった薬剤と考えられ、現在も慢性疾患に用いられることも多い。</p> <p>今回我々は可能性椎間板炎患者の各種免疫値の測定を行い、免疫機能に異常がないかどうかを数字上明らかにし、これら免疫機能の値が、漢方製剤／補中益気湯により変動が見られるかどうかを研究の目的とする。</p>			
研究内容	<p>化膿性椎間板炎で入院してきた患者を各種免疫機能検査を行った上で二群にわけ、抗生剤投与、安静臥床など、基本治療は全く同様にした上で、一方には補中益気湯7.5gの投与を速やかに行う。治療開始後痛みの程度、筋力の回復、各種炎症マーカーの回復程度、免疫検査指標の変化を一週間に一度測定する。またレントゲン所見、MR所見も1ヶ月に一度は行う。また退院後も外来通院を経時的の行い、各種マーカーの変化を追跡する。</p>			
研究成果概要進捗状況	<p>化膿性椎間板炎において、当院における化膿性椎間板炎、腸腰筋膿瘍の治療においては、他院、他科からの紹介患者がほとんどであり、敗血症やセプテックショックで入院してくる事が多く、治療は急を要する状態であったり、瀕死の状態の患者さんがほとんどである。倫理委員会を通してあるいは倫理委員会の許可の得られる様な承諾書を患者本人から得られる事は非常に困難である事、また補中益気湯を経口摂取できる様な状態の良い患者さんが、この疾患の場合少ない事から、研究を申請してから1年を経過する現在、この研究が滞っている状況にある。</p>			
有害事象、不具合等の発生状況	不具合や有害事象の発生は無いが、今後の研究システムをどのように行っていくか、現在検討中である。			
その他特記事項等				